

## 株式会社リクルートマネジメントソリューションズ 「働く人の本音調査 2024」結果

調査対象	従業員 50 人以上の企業で働いている 25～59 歳の正社員
調査方法	インターネット調査
有効回答数	8,376 人
調査時期	2024 年 3 月 19 日～3 月 29 日

サラリーマンにとって、本音を吐くのは夜の居酒屋、というのは昭和の時代の話だろうか。今回は、「働く人の本音調査」から、人事評価に対する意識についてみてみたい。

### 「仕事の機会」より「給料」

人事評価による処遇について働く人の本音、“希望”からみてみよう。

人事評価で、「A. 給料（月給や賞与の増減）」と「B. 仕事の機会（希望する仕事が任されたり、異動希望が叶うこと）」のどちらをより反映して欲しいと思うか、という問いに対し、「給料」を選択した人は 75.0%（「A」+「どちらかといえば A」の計）で、「仕事の機会」を選択した人を大きく上回っている。

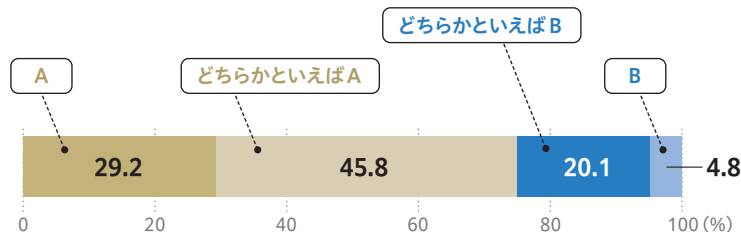
「給料」に反映している.....  
..... 51.3%

一方、人事評価の反映の“実態”はどうなのだろうか。「給料」が 51.3%（「A」+「どちらかといえば A」の計）、「仕事の機会」は 34.1%（「B」+「どちらかといえば B」の計）、「わからない」が 14.7% となった。

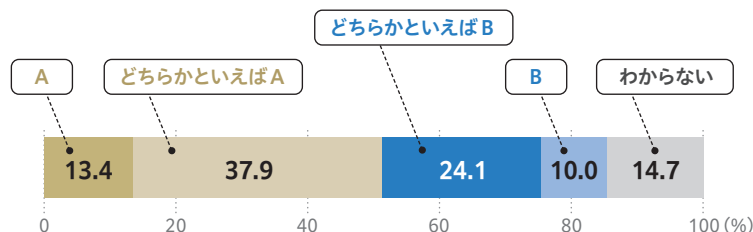
「給料」への反映は全体の 5 割にとどまり、その分、「仕事の機会」に反映される割合が相対的に多くなっている。人事評価に対する“希望”と、会社での処遇の“実態”とでは大きな開きがある。

## 人事評価を給料に反映して欲しいと思っている人は 75.0%

【働く人の希望】人事評価を「A. 給料」と「B. 仕事の機会」のどちらに  
より反映して欲しいと思うか



【実態】人事評価が実際に反映されているのは、  
「A. 給料」と「B. 仕事の機会」のどちらか



少し前まで、働く人の関心事といえば、多様で柔軟な働き方など、“働き方”にあったように思う。人事評価を「仕事の機会」に反映させることは、“働き方”を含めた仕事のしかたとして、働く人の意向に沿っているとも思える

が、働く人の本音は違うようだ。見方を変えれば、いまの「給料」に満足していない人たちが多いということだろう。そんな本音が“希望”に反映されている。  
(インテリジェンスバリューコーポレーション株式会社 岩村克俊) ●